第35回　DAAS運営委員会　　議事

□日　時：2017年11月15日（水）　14:00～16:00（予定）

□場　所：星陵会館 3B 会議室
　　東京都千代田区永田町 2-16-2
　　TEL:050-3786-0568　DAAS 事務局
　　TEL. 03-3581-5650　　星陵会館

□ 議　事：

［承認事項］

議案1　第12期総会資料　　別紙1

［検討事項］

議案2　第12期事業計画

コンテンツの整備について　　資料1
　　国庫補助金を利用した動画（オーラルアーカイブ）制作　撮影対象者の検討
　　DAAS-Webサイトのシステム改善について

DAAS資料の著作権についての整理と新建築社との調整について
　　公的利用範囲の明文化と新建築社の著作権についての整理

配布資料：

第12期総会資料一式　　別紙1

資料2

資料1

コンテンツの整備について(第12期事業計画)

1. 国庫補助金を利用した動画(オーラルアーカイブ)制作 撮影対象者の検討

参考:DAAS アーカイブシリーズ(設立～2017 年まで) 一覧

掲載ページ	出演	内容	
活動紹介	村上周三氏(日本建築学会会長),宮本忠長氏(日本建築士会連合会会長),吉田信之氏(新建築社取締役社長),奥村昭雄氏(東京藝術大学名誉教授),森 晃一氏(ライト建築アーカイブス日本代表理事),上田千秋氏(日本放送協会マルチメディア局長),南迫哲也氏(ライト建築アーカイブス日本副代表理事),Richard Rogers 氏(建築家),隈研吾氏(建築家)	活動紹介	第 1 期
特集企画	槇文彦氏(DAAS 理事長)	インタビュー	第 1 期
イベント報告	菊竹清訓氏 (建築家)	4k 映像システム 高精細建築画像の夕べ	第 2 期
イベント報告	撮影取材	清家清作「宮城教授の家」	第 2 期
イベント報告	デジタル卒業設計大賞 2007	応募作品の一覧	第 2 期
イベント報告	デジタル卒業設計大賞 2007(隈研吾氏講評)	受賞者との懇親会風景	第 2 期
イベント報告	デジタル卒業設計大賞 2008(六角鬼丈氏公表)	受賞者との懇親会風景	第 3 期
特集企画	池原義郎氏 (建築家)	作品を語る	第 3 期
特集企画	難波和彦氏(建築家)	作品を語る	第 3 期
特集企画	古谷誠章氏(建築家)	作品を語る	第 3 期
特集企画	内田祥哉氏 (建築家・研究者)	GUP について	第 4 期
特集企画	池田武邦氏 (建築家)	作品を語る	第 4 期
特集企画	内田祥哉氏 英語字幕版(建築家・研究者)	インタビュー (英訳版)	第 5 期
特集企画	池田武邦氏英語字幕版(建築家)	インタビュー (英訳版)	第 5 期
イベント報告	UIA2011TOKYO イベントビデオ	session1 本江正茂×赤松佳珠子	第 6 期
イベント報告	UIA2011TOKYO イベントビデオ	session2 赤松佳珠子×磯達雄	第 6 期
イベント報告	UIA2011TOKYO イベントビデオ	session3 磯達雄×渡邉英徳	第 6 期
イベント報告	UIA2011TOKYO イベントビデオ	session4 渡邉英徳×大山顕	第 6 期
イベント報告	UIA2011TOKYO イベントビデオ	session5 大山顕×倉方俊輔	第 6 期
イベント報告	UIA2011TOKYO イベントビデオ	session6 倉方俊輔×本江正茂	第 6 期
特集企画	鈴木博之氏(建築史家)	DAAS の理事長として	第 8 期
特集企画	渡邊英徳氏(研究者)	アーカイブについて語る	第 8 期
特集企画	藤岡洋保氏(建築史家)	アーカイブについて語る	第 8 期
特集企画	北郷悟氏(彫刻家)	アーカイブについて語る	第 8 期
特集企画	芦原太郎氏(建築家)	アーカイブについて語る	第 9 期
イベント報告	デジタル卒業設計大賞 2014 芦原太郎氏	受賞者との懇親会風景	第 9 期
特集企画	今里隆氏(建築家)	作品を語る	第 10 期
特集企画	仙田満氏(建築家)	作品を語る	第 11 期

2. Web サイトのシステム改善について

DAAS-Web サイトは、2011 年に大幅なデザイン改修と検索システムの改修を実施した。その後は日々のニュースの更新、新しいコンテンツの掲載（一部は事務局で作業が出来ないため、製作会社に依頼）メタデータ（データベース）と写真の追加・修正等が行われている。第11期の Web サイトの閲覧者数は、前年度と比較し累計で 1,000 人(view)減少、サイト閲覧の為の登録者数も年々減少している状況である。

システムが急速に変化する中で今後 Web サイトがどうあるべきか、また現在どのような問題点があるか、等の洗い出しをする必要がある。具体的な方法として、部会でチームを作り Web サイトの改修に着手すること、会員、利用者、委員会での意見を集約すること、また必要により外部の有識者に支援を依頼することなども検討したい。

（問題点洗い出しの例として）

- データベースの正確さの問題
- 修正作業にかかる人的リソースの問題
- 画面遷移等、利用のしやすさ、等の問題
- web サイトへの登録について
- 検索システムの問題（建築情報自体の複雑さ、変化に対応出来るよう、建物に関する情報、資料に関する情報、表彰内容に関する情報、設計者・施工者等の個人に関する情報、団体・会社等に関する情報等、それぞれデータをもち、リレーショナルデータベースとしての構造をもっている→更新、入力、登録が煩雑）

（今後の DAAS-Web サイトとして望まれることの例として）

- 利用対象者にとって利用しやすい、見やすい、わかりやすい Web サイトの検討
- 更新のしやすさ
- データ・情報が“集まる”Web サイトの仕組みの検討
  →データを利用者がアップロードできるようなシステムの検討　等

（参考：2011 年度改修時の状況と Web サイトの現状）

【改修目的】

以前の Web サイトは慶應大学が研究目的として当時の実験的なシステムを利用していたため、事務局等での更新作業ができなかった。その為、画像データ・データベース・お知らせ等の追加・修正を簡易に行えるようにシステムを改修。

【Web サイト全体のデザイン改修】DAAS の名刺や、DVD パッケージ、動画のグラフィックデザイン、等々で依頼しているデザイナーの秋山伸氏に Web サイトのデザインを依頼。DAAS に一貫した「イメージ」を出すため

【インターフェース等】DAAS-Web サイトは上部の黒い部分と下部の白い部分で大きく構造をわけている。

上部　建築情報の検索システム（DAAS 独自のシステム）

下部　News、エッセイ、写真以外のコンテンツ（wordress オープンソースのブログプラットフォームを利用し、改修がしやすいようにしている）

検索システムは以前の詳細情報検索から、利用しやすい検索機能を絞り、アイコンとして表示している。
（キーワード、竣工年、地図、カテゴリー、表彰事業、個人名、団体名）

検索結果（例）：地図検索より　東京都を指定

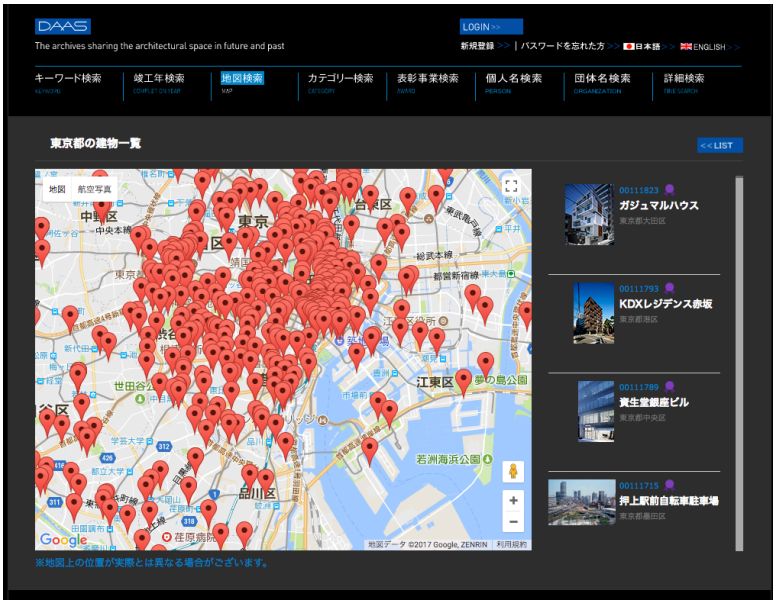
リストによる一覧表示
※登録した情報の新しい物から
表示される

地図（Googlemap）表示

※　緯度経度情報の正確性の問題

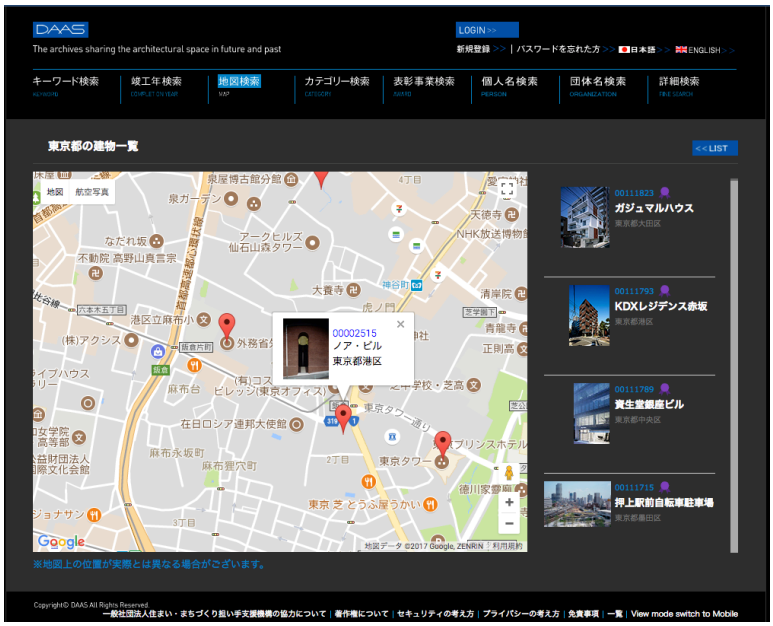
※　個人宅等、表示できない情報
　　については区役所等
　　ランドマークを示している。

※　表示までの時間について
　　件数が多い都道府県の場合
　　地図表示までの時間がかかる



地図ズーム　の状態

※　サムネイル表示から情報へ
　　遷移ができていない、など



資料2

DAAS 資料の著作権についての整理と新建築社との調整について

DAAS が収蔵するデジタルデータ化された写真・図面資料は約 12,000 件であるが、そのうち 7,500 件が(内訳:設立時約 6,000 件、2008～2011 年の表彰事業収蔵時約 1,500 件)新建築社が著作権をもつ資料となる(約 60%)。各資料は設計者、写真の著作者等々からの公開許諾を得た物を DAAS-Web サイトで公開を行うほか、書籍や展示等の利用申込みを受けたものについては有償でのデータ貸出を行っている。

DAAS のデータは国庫補助金により整備された資料であることから、より多くの人に利用しやすい資料となることが望まれる。また、文化庁近現代建築資料館との交渉時、資料館からの要望に「国の機関として利用希望者には無償で資料を貸し出しするという体制をとっており、利用に関しての著作権整理が出来ている物が収蔵対照となる」という意見があった。

この状況を受け、DAAS では改めて「公的範囲」の利用定義を明文化すること、また、「公的範囲」での資料の利用拡大の為に著作者にはどのような調整・交渉が必要か検討する必要がある。その為にもまずは新建築社との話し合いが必要であると考えている。

以下に、建築・空間デジタルアーカイブス(DAAS)構築業務(2006 年)での新建築社の写真のデジタルデータ化における作業内容と、その際の利用許諾内容についてまとめる。

【要点】

- 国土交通省より委託をうけた　日本建築センターにてデジタルデータ化作業を行う。
- 資料の利用にあたり、利用許諾を新建築社と契約(写真はデジタルデータ化作業終了後、新建築社に返却
  - デジタル化データを WEB サイトに掲載すること
  - デジタル化データを利用して
    →印刷物を製作し、頒布すること(DAAS シンポジウム当日配布等)
    →マルチメディア製作物を作成し、放映するとともに、これを頒布すること(DAAS シンポジウム当日放映＝配布用 DVD の製作)
    →印刷して展示すること
    →その他想定される BCJ の利用について了解を得ること
  - デジタル化データを第三者に利用させること、頒布すること(DAAS コンソーシアムの利用形態を想定)
- <u>契約内容は、DAAS コンソーシアム設立後、DAAS が法人化された時点で、同条件で DAAS が引継ぐ</u>
- 写真のデジタルデータ化における　新建築社との業務委託内容、利用許諾範囲についての抜粋
  (1) デジタルアーカイブの構築:データをデータベースに含ませることによりデジタルアーカイブを構築すること。
  (2)データの紹介又は提供:デジタルアーカイブに収録されたデータを印刷物又は CD-ROM、MO、DVD 等の電子記録媒体に複製して譲渡し、又はインターネット等のネットワークで公衆送信することにより、紹介又は提供すること。
  (3)製作物の頒布(データの自らの利用):データを利用して企画、製作する DVD 等のマルチメディア・タイトルの頒布(貸与、譲渡を含み、販売は含めない)をすること。

(4)展示（データの自らの利用）：データを利用して印刷物に複製し、展示すること。
(5) その他、別途協議の上で取り決める事項
以下の各号に定める範囲で、データを第三者からの申し込みに応じ再利用許諾をすることができる。
(1) 印刷物を制作し頒布、販売すること
(2) CD-ROM、MO、DVD 等の電子記録媒体よる作品を制作し頒布、販売すること
(3) 放送番組を制作し放送すること
(4) インターネットのウエブサイトを制作し公衆送信すること
(5) 前各号に伴う宣伝広告活動に利用すること
再利用許諾の場合、第三者に対する当該再利用許諾の有効期間等の条件について、協議してその取り扱いを決定するものとする。
再利用許諾を希望する第三者が、データを改変して利用する場合については、その都度協議して取り扱いを決定するものとする。
（デジタル化）デジタル化及びこれにより得られるデータの仕様は、準備委員会、事務局会議等（学識経験者、実務者等により構成し、設置する会議とする。）の検討を経て決定するものとする。作品のデジタル化作業の工程において、新建築社は本件作品の色調・トリミング・キズ除去等の補整作業結果の妥当性確認を行うものとする。_

- データの無償利用承諾の範囲（データサイズにより条件を設定）

  320×240 ピクセル以下：
  前述の（1）から（5）の全て。尚不正利用されないよう、データ自体に電子透かしを挿入、かつ、インターネット等のネットワークによる公衆送信においてセキュリティー対策を講じることを条件とする。
  320×240 ピクセルを超え、1024×768 ピクセル以下のもの：
  前述の（1）から（5）の全て。尚不正利用されないよう、データ自体に電子透かしを挿入、かつ、インターネット等のネットワークによる公衆送信においてセキュリティー対策を講じることを条件とする。
  紹介又は提供にあたってはデジタルアーカイブに収録されたデータを印刷物又は CD-ROM、MO、DVD 等の電子記録媒体に複製して譲渡し、又はインターネット等のネットワークで公衆送信（ただし、国土交通省及びその関係機関（各地方整備局等）における公務利用に限る）することにより、紹介又は提供すること。
  製作物の頒布（データの自らの利用）データを利用して企画、製作するDVD 等のマルチメディア・タイトルの頒布（貸与、譲渡を含み、販売は含めない）をすること（ただし、データの複製物を編集、加工等せず、そのまま再利用できる状態で当該タイトルに含めないことを条件とする。）。
  1024×768 ピクセルを超えるもの：
  前述の（1）から（5）の全て。尚不正利用されないよう、データ自体に電子透かしを挿入、かつ、インターネット等のネットワークによる公衆送信においてセキュリティー対策を講じることを条件とする。
  製作物の頒布（本件データの自らの利用）データを利用して企画、製作する DVD 等のマルチメディア・タイトルの頒布（貸与、譲渡を含み、販売は含めない）をすること（ただし、本件データの複製物を編集、加工等せず、そのまま再利用できる状態で当該タイトルに含めないことを条件とする。）。

- 新建築社による本件データの利用
  データを利用して出版物等を製作・頒布する場合に限る。なお、新建築社が当該出版物等を有償により頒布する場合は、別途協議の上で条件を取り決めるものとする。
  なお、設計者や所有者に対し承諾が得られていないデータの WEB 公開を保留することとする。

【参考】

- 写真をデジタル化することに創作活動が含まれないため、デジタル化データ自体に著作権が発生しない（デジタル化データは建築写真という著作物の複製物と位置付けられる）。
- 従って、デジタル化データの WEB 掲載、印刷利用等について、写真現物に著作権を有する新建築社からの利用許諾が必要となった。
- 著作権について
  - 著作者の死後 50 年までが原則
    著作権の原則的保護期間は、著作者が著作物を創作した時点から著作者の死後そのほかの例外的保護期間を合わせると表のとおり。

著作物の種類	保護期間
実名（周知の変名を含む）の著作物	死後 50 年
無名・変名の著作物	公表後 50 年（死後 50 年経過が明らかであれば、そのときまで）
団体名義の著作物	公表後 50 年（創作後 50 年以内に公表されなければ、創作後 50 年）
映画の著作物	公表後 70 年（創作後 70 年以内に公表されなければ、創作後 70 年）

※死後、公表後、創作後の期間の計算は、期間計算を簡便にするため、死亡、公表、創作の翌年の1月1日から起算。なお、保護期間中でもその著作権者の相続人がいないときは、著作権は消滅。
参考条文…著作権法第 51 条～第 58 条

Digital Archives for Architectural Space

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

第12期（2017-2018年）総会

開催日時 _____年__月____日（__）午____時____分より午____時分
開催場所 _____会議室

築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム（DAAS）

第12期（2017-2018年）総会次第

開催日時：_____年__月____日（__）午____時____分より午____時分
開催場所：_____会議室

１ 開会挨拶

竺 覚暁 建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム 理事長

２ 来賓挨拶

_____

３ 議　事

議案１　第 11 期（2016-2017 年事業報告(案)及び収支決算(案)について

資料 1　第 11 期（2016-2017 年）事業報告(案)

資料 2　第 11 期（2016-2017 年）収支決算(案)

監査報告

資料 3　監査報告書

議案２　第 12 期（2017-2018 年）事業計画（案）及び収支予算(案)について

資料 4　第 12 期（2017-2018 年）事業計画(案)

資料 5　第 12 期（2017-2018 年）収支予算(案)

４ 報　告

資料 6　会員名簿変更について

資料 7　規約第7条第4項に基づく指定代表者の変更について

５ 閉　会

議案1　第 11 期(2016-2017 年)事業報告(案)
及び収支決算(案)について

資料1　第 11 期(2016-2017 年)事業報告(案)

資料2　第 11 期(2016-2017 年)収支決算(案)

監査報告

資料3　監査報告書

資料１

第 11 期(2016-2017 年)事業報告(案)

1. 概要

第 11 期総会での会費規程改定により、第 10 期と比べ大幅に予算を縮小した厳しい事業年度となったが、企画運営部会での収支シミュレーションを元に事業を実施し、基本活動の「Web サイト等基本システムの維持・管理」「収蔵データの維持・保全」及び、国庫補助金を活用した「コンテンツ拡充」「Web サイト改修」「建築情報(データベース)の精度向上」等々においては第 10 期と同等の事業成果をあげることができた。また、企画運営部会で検討を重ね選択肢を示した「今後の運営方針」について関係各所へのヒアリング、交渉等、具体的な活動をすすめている。会費規程改定と併せ新規規約を策定し、総会・理事会開催の効率化や経費縮小化を実現したが、今後も効率的な事業推進・経費削減策等も講じつつ、企画運営部会・運営委員会で引き続き安定した組織運営にむけて検討を重ねる。

2. 事業実施状況

(1) Web サイト等基本システムの維持・管理

サーバ保守業者によるサーバ OS、周辺アプリケーションの定期的な更新やサーバ環境のセキュリティ対策等々、これまでの体制を維持継続している。

(2) 収蔵データの維持・保全

DAAS の資産の一つ「高精細画像データ」の破損と消失を防ぐことを目的として、事務局内保管と、データ保管専門業者の遠隔地のデータ保管サービスを併用している。

また「データの維持・保全」として、建築情報データベースの精度向上を目的とした作業を継続して行っている。特に建物の緯度経度による位置情報、建物作品の現況情報(現存・解体　等)、検索性向上を目的とした検索キーワードの付与等は、随時追加・修正を行い、情報の改善につとめている。DAAS のデータベースの構造は複雑な建築情報に対応する為、建物に関する情報、資料に関する情報、表彰内容に関する情報、設計者・施工者等の個人に関する情報、団体・会社等に関する情報等の情報をそれぞれ管理しながら、システム上で関連づける構造になっている。その為、入力や登録は複雑な作業が必要になる。また、建築情報自体は、名称の変化、用途変更、市町村合併等による住所表記の変更等もあり、変化する情報をどのように収集・改善し、情報を蓄積していくかがデータベース維持においての継続的課題である。

(1)及び本事業はデジタルアーカイブの基本活動として予算を確保しつつ今後も継続して行っていく。

(3) 運営基盤の安定化に資する検討体制確立と継続検討

2015 年より運営委員会の下に設置した「企画運営部会」は、運営委員会と連携しつつ、今後の DAAS 活動に資する事業の検討、運営方針の議論等を行い、基盤安定化を検

討する体制を確立した。第 11 期では、検討事項の実施のための具体的ヒアリングや交渉等を行った。企画運営部会の継続検討事項は以下のとおりである。

①運営基盤の安定化方策検討

②事業計画に基づく事業実施や企画検討

③その他、運営委員会承認事項の事前検討　等

実施事項については、別紙1のとおり。

(4) コンテンツの整備

動画収録、デジタルデータ作成

Web コンテンツ作成等業務の受託により(国庫補助金　300 万円)新規コンテンツ制作を行った。第 11 期の成果については別紙2にて詳細を報告する。

なお、本受託業務におけるコンテンツの整備は、実施年度と DAAS の事業年度が一致しないことから、第 12 期継続事業として進める。

［第 12 期コンテンツ整備事業(継続事業)］

・団体等受賞作品の収蔵

・動画収録(DAAS 収蔵作品の建築家、写真家等)

・VR(ヴァーチャルリアリティ)を利用した空間画像データ

(5) Web サイトの改善

新規コンテンツ収蔵((4)で制作したコンテンツ)に必要な新規ページの制作を行った。その他、WEB サイト機能追加、検索機能の改善のための機能追加等は、「(4)新規コンテンツの整備」と連動し、第 12 期継続事業とする。

(6) その他

① オープンアライアンス活動

(オープンアライアンスとは、必要性、重要性など、同じ目的を持つ異なる企業・団体が組織の枠組みを超え、知識、技術、等を協力した状態で活動することとしている)

これまで JIA-KIT 建築アーカイヴスと、資料のデジタル化などの連携をおこなってきたが、第 11 期は、今後の運営にも関わる件として、連携先、協力機関へのヒアリングを行った。

②その他 DAAS の目的に資する活動状況

1)有償利用について

第 11 期における収蔵データの有償利用は国内から　のべ 5 件の海外からのべ 2 件合計7件の申し込みがあった。

利用目的は展示、書籍掲載などである。いづれも設立時褪色補正をした高精細画像の　60-70　年代の建築作品に関する写真データの申込みであった。海外からは DAAS-Web サイトを通しての問い合わせを受けた。

- 脇田美術館
- 株式会社マガジンハウス　雑誌　BRUTUS（2 件）
- German_Architecture museum_(DAM)（2 件）
- 芦原義信展
- 総合資格学院

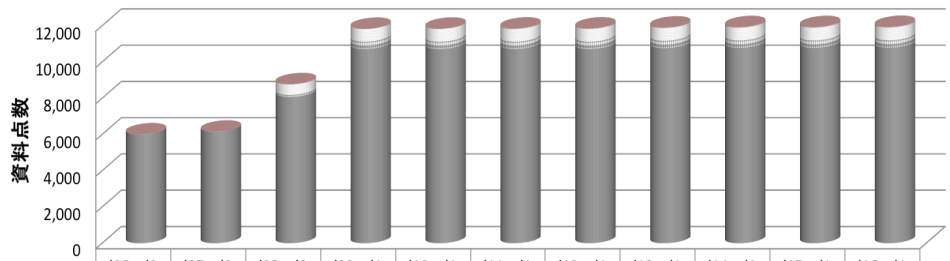
DAAS がデジタルデータを保管し Web サイト上で資料が確認できることは、国内外問わず、資料利用者の利便性が高い。今回の問い合わせは、いづれも新建築社の写真についてであったが、新建築社の利用許可の手続を除けば、申し込みや問い合わせ、データ納品への対応が早急に出来、版権者、利用者共に利用しやすいシステムが構築されたと言える。

- 設立から第 10 期までの DAAS の活動と登録者、閲覧者数の推移（報告）

①資料収蔵数推移（累計）

2011 年の UIA 世界大会を目指して国庫補助金活用した資料のデジタル化を行ったが、その受託事業が終了した第 6 期以降は団体会員の協力による表彰作品資料の収蔵数と国庫補助金の活用による動画、VR の収蔵のみとなっており、資料全体の収蔵数に大きな伸びはない。

資料のデジタル化、収蔵、コンテンツ制作については、継続的に行う予定であるが、大幅な収蔵数の拡大には作業人員の確保、整備にかかる費用の確保は必須である。



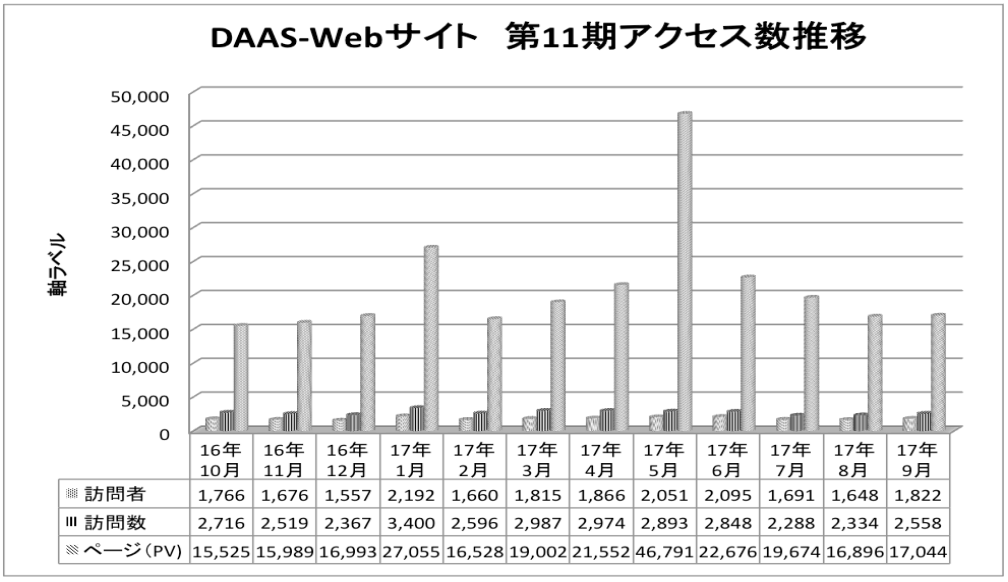
	'06～'07(第1期)	'07～'08(第2期)	'08～'09(第3期)	'09～'10(第4期)	'10～'11(第5期)	'11～'12(第6期)	'12～'13(第7期)	'13～'14(第8期)	'14～'15(第9期)	'15～'16(第10期)	'16～'17(第11期)
VR	0	0	0	0	0	0	3	5	8	8	10
電子書籍	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2
エッセイ	5	5	5	5	5	11	11	11	11	11	11
動画	6	10	12	14	20	20	24	26	27	27	28
図面（まちなみ）	0	0	574	692	692	692	692	692	692	692	692
図面（建築）	0	0	113	405	405	405	405	405	405	405	405
写真	6,002	6,148	8,074	10,720	10,720	10,720	10,720	10,770	10,786	10,786	10,794
資料総合計	6,013	6,163	8,778	11,836	11,842	11,850	11,857	11,911	11,931	11,931	11,942

②Web サイトアクセス数推移及び、DAAS-Web サイト登録者数推移（累計グラフは次ページを参照）

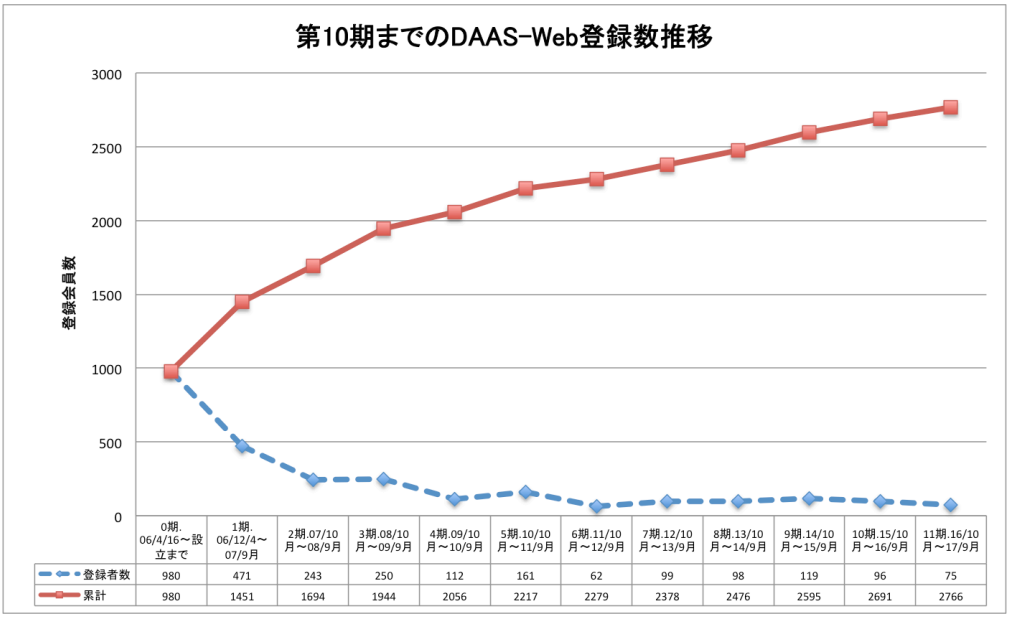
表内の「訪問者数」に対し「訪問数」は「延べ数（同一 IP からのアクセス数）」である。

第 11 期累計としては訪問者 21,839 人、延べ訪問数 32,480 であり、訪問者数が伸びた月についてはコンテンツ掲載や、募集、告知等に連動しない独自のアクセス数の伸びである。第 10 期訪問者総数 22,877 人、延訪問数 37,057 人と比較して、第 11 期の訪問者数ページビュー共に減少している。イベント開催等を行わなかったことによるものと考えられるが、SNS 等での新規コンテンツ掲載など告知は行っているが、平均した閲覧数を保っているといえよう。

DAAS-Web サイトの会員登録者数は設立以降平均した増加となっている。登録者の傾向としては、学生、建築関係者、メーカーや不動産といった建築関連、書籍や展示利用を目的とした美術館などの閲覧者である。



	16年10月	16年11月	16年12月	17年1月	17年2月	17年3月	17年4月	17年5月	17年6月	17年7月	17年8月	17年9月
訪問者	1,766	1,676	1,557	2,192	1,660	1,815	1,866	2,051	2,095	1,691	1,648	1,822
訪問数	2,716	2,519	2,367	3,400	2,596	2,987	2,974	2,893	2,848	2,288	2,334	2,558
ページ（PV）	15,525	15,989	16,993	27,055	16,528	19,002	21,552	46,791	22,676	19,674	16,896	17,044



	0期.06/4/16～設立まで	1期.06/12/4～07/9月	2期.07/10月～08/9月	3期.08/10月～09/9月	4期.09/10月～10/9月	5期.10/10月～11/9月	6期.11/10月～12/9月	7期.12/10月～13/9月	8期.13/10月～14/9月	9期.14/10月～15/9月	10期.15/10月～16/9月	11期.16/10月～17/9月
登録者数	980	471	243	250	112	161	62	99	98	119	96	75
累計	980	1451	1694	1944	2056	2217	2279	2378	2476	2595	2691	2766

別紙1

企画運営部会活動報告

1．開催状況と検討内容（2015年設置から2017年までの活動経緯）

	第 9 期		第 10 期				第 11 期			第 12 期
	2015 年		2016 年				2017 年			
	7~9 月	10~12 月	1~3 月	4~6 月	7~9 月	10~12 月	1~3 月	4~6 月	7~9 月	10~12 月
企画運営部会	○ ○	○	○	○	○○	○		○ ○		
部会関連活動	○	○	○		○○	○○○	○○○		○	
委員会･総会(◎)	●●	◎		●	●			●	◎	●

(2015 年 5 月： 国土交通省にて WG の報告書を提出。（運営基盤の安定化方策検討 報告書）
2015 年 7 月： 第1回企画運営部会の開催。（WG 成果を部会に引継）
・コンテンツ収蔵ポリシー、企画案、連携、補助金の要請等意見招集
2015 年 8 月： 第 30 回運営委員会開催。
・企画運営部会の設置と検討事項、意見等の報告
2015 年 9 月： 第2回企画運営部会の開催。
・予算・第10期計画の検討、第10期総会資料の検討
2015 年 9 月： 第 31 回運営委員会開催。
・第10期総会資料承認
2015 年 10 月： 国土交通省に於いて総会開催相談と会費状況の検討
2015 年 10 月： 第 10 期(2015-2016 年)総会開催
2015 年 12 月： 第3回企画運営部会の開催。
・補助金活用・会費事業の事業推進チームの設置と事業内容の検討
・ミッション、収蔵ポリシーの再検討
2016 年 1 月： 第 4 回企画運営部会の開催
・第3回議案の継続検討、DAAS 設立時における著作権等の整理
2016 年 2 月： 金沢見学会
・オープンアライアンス関係の金沢工業大学アーカイブを見学
2016 年 6 月： 第 5 回企画運営部会
・第 10 期前半活動報告、DAAS 著作権等の現状整理
・第11期からの役員、委員長選任、事業計画、会費設定の改訂に係る検討
2016 年 6 月： 第 32 回運営委員会開催
・部会の検討事項報告
2016 年 8 月： 国土交通省にて DAAS の今後について議論
2016 年 8 月： 第6回企画運営部会
・国土交通省打合せ報告、第11期運営、運営委員長、役員等の検討
2016 年 9 月： 第7回企画運営部会
・第11期総会・第5回理事会資料の検討
2016 年 9 月： 芦原理事長・委員との打合せ
・第11期総会・第5回理事会資料の報告及び連携先、著作権整理等の検討
2016 年 9 月： 第 33 回運営委員会開催
・新年度に向けた事業計画の承認
2016 年 10 月： 著作者（新建築社）へのヒアリング
・現状報告及び意向確認
2016 年 10 月 推進チームによるコンテンツ制作（オーラルアーカイブ、VR、Web 改修、
～2017 年 3 月： データ整備等）
2016 年 12 月： 第 8 回企画運営部会
・事業進捗及び打合せ内容報告
2016 年 12 月： 国土交通省建築指導課打合せ
・芦原理事長出席 運営についての打合せ
2016 年 12 月： 文化庁 近現代建築資料館
・芦原理事長出席 資料保全について打合せ

2017 年 4 月:　　国土交通省において(審議官、竺運営委員長)
・運営についての打合せ
2017 年 6 月:　　役員継続の御願い等(竺運営委員長、本多委員)
2017 年 6 月:　　第 34 回運営委員会開催
・　総会資料承認
2017 年 7 月:　　第 11 期(2016-2017 年)総会・第 5 回理事会 開催
2017 年 9 月:　　国土交通省において 建築指導課への状況報告と打合せ
2017 年 11 月:　　第 35 回運営委員会開催

2. 事業推進チームの設置と成果

表彰事業募集時において、DAAS-Webサイトへの掲載の依頼、国庫補助金を活用したコンテンツ整備等。コンテンツ整備についての詳細は別紙2

	会費事業(必須事項を行う＝データやコンテンツの維持・保全・管理・活用)	補助金事業(コンテンツを拡充する為)
内容	1.コンテンツの維持・管理・保全 2.メタデータの管理・改善 3.WEB サイトの改善 4.関連団体の顕彰作品の収集	1.新規コンテンツ制作 ・オーラルアーカイブ、VR 等 2.コンテンツ拡充 3.コンテンツ活用
チーム	1～3.座長:中田委員 チーム:山崎委員、武藤 部会以外:大久保氏・遠山氏(DAAS)Web 制作:ブロードワークス 4.座長:竺主査 メンバー:今倉委員、鈴木委員、鰺坂委員、山崎委員	座長:三塩幹事 チーム:中田委員、武藤 委託先:君塚和香氏,墨田クリエイターズクラブ、秋山伸氏

3. 関係先との打合せ等

企画運営部会で検討された事項は、運営委員会で報告、承認を得て事業を実施。併せて今後の運営相談が必要な事項については国土交通省へ訪問し報告、必要な事項についての確認、等を都度行っている。また第11期は今後の運営について著作者の新建築社や、文化庁 近現代建築資料館にも訪問しヒアリングを行った

(ア) 国土交通省との打合せ 実施

① DAAS設立の経緯の再説明

② DAAS設立から現在までの運営状況について

③ 部会検討事項実施においての相談

④ 今後の国交省のDAASへの関与についての確認

(イ) 文化庁 近現代建築資料館との打合せ 実施

4. 会費減額と規約改定

会費減額のシミュレーション、予算検討、規約改定 等。

5. 事業計画検討(継続事項)

(ア) 今後の運営方針・活動方針について(提言)

DAAS の運営に関しての結論、選択肢の設定

- 法人化／連携・統合／事業の移行／維持／解散、等の方針決定と運営委員会への提出
- 国土交通省の意向と方針の確認（新規発展等について望めるのか否か。国費で整備したものについての整理は、国費で整備した組織の継続・解散はどうするのか。）

（イ） 短期・中期・長期計画について（運営の選択肢）

短期計画会費設定と事業内容の精査

中期・短期計画法人化方策について

- WG で議論された目指すべき法人格（一般社団法人・一般財団法人）取得の継続議論。時期、方策等の検討。
- 法人化に必要な手続き・調整・交渉等についての継続議論
  - 組織基盤の安定化を実現する経営資源の確保、他機関の支援・協力の確保
  - 統合・連携の検討・他機関の情報収集（※国土交通省・文化庁・DAAS 会員・DAAS 会員外・大学機関）
  - 支援先もしくは統合・連携機関との交渉
- 法人化による著作権移転手続きの確認。
- 「解散」においての必要事項の確認（法人格取得時「解散」手続きが必要となる為）

DAAS コンテンツ・システムの著作権整理等

- 法人化、統合・連携等や事業拡大・解散、いずれの場合も改めて建築資料の著作者、関係者への連絡・調整が必須
  - 新建築社、その他著作者への告知・調整、契約等の締結

DAAS コンテンツ拡充、とシステム改変等々について

- 法人化・統合・連携をすすめる場合、DAAS メリットの拡大も考慮し、コンテンツの制作及びシステム改変に関しての議論

（ウ） 補助金活用事業・会費活用事業について

国庫補助金を活用したコンテンツ制作の内容、会費事業における事業内容の検討、1.コンテンツの維持・管理・保全　2.メタデータの管理・改善　3.WEBサイトの改善　4.関連団体の顕彰作品の収集　を軸とする事業内容、DAASメリットを視野に入れたコンテンツ制作の検討。

別紙2

国庫補助金を活用したコンテンツ整備事業報告

1．インタビューコンテンツ（オーラルアーカイブ）制作詳細及び成果報告

インタビュー対象者及び所属、肩書き等

建築家　仙田満氏
経歴：環境デザイン研究所会長、環境省、最高裁判所、日本学術会議等の国の委員、日本建築学会、日本建築家協会副会長、会長を歴任
日本大学芸術学部、早稲田大学理工学部、講師
琉球大学工学部建設工学科、名古屋工業大学社会開発工学科教授
東京工業大学工学部建築学科・ 大学院理工学研究科建築学専攻教授
慶應義塾大学大学院特別研究教授、愛知産業大学大学院、放送大学教授

企画内容

（ア） 伝えたい事　：環境デザインとは　次世代へのメッセージ
（イ） 収録内容：
【導入】建築を学んだきっかけ
【メイン】自身の作品を通じて・「環境をデザインする」こととは
【結び】後世に伝える、残す
（ウ） 映像制作の目的：想い、メッセージを伝える
【メッセージ】次世代に語り継ぐために
（エ） 収録方法
インタビュー、及び代表的作品でのロケーション。必要があれば解説映像のロケーションを追加。
（オ） その他
キャプション資料の作成、ロケーション場所との撮影調整、編集行チェック、また、インタビュア・撮影者・スタッフ向けの情報の収集及び必要資料の作成（以下　（ク）に添付）はDAAS事務局にて行う。また撮影会社への指示、デザイナーの指示のとりまとめも DAAS 事務局で行う。撮影は、撮影会社への依頼を行い、編集時に利用するタイトル、テロップ等の作成は、デザイナーに依頼する。
（カ） 撮影場所：国際教養大学
（キ） 撮影スタッフ
インタビュア　：竺覚暁氏（DAAS 運営委員長）・本多陽氏（DAAS 運営副委員長）
撮影（カメラ）　：後藤大輝氏（すみだクリエイターズクラブ）
ディレクター　：三田大介氏・樋口珠由子氏（すみだクリエイターズクラブ）
デザイナー　：秋山伸氏・黒崎厚志氏（有限会社エディションノルト）
事務局　：武藤奈津子（DAAS）
ロケーション　：国際教養大学　企画・広報チーム
（ク） 資料：インタビュア・撮影者・スタッフ向けの情報の収集及び必要資料
シナリオ、インタビュー内容書き起こし、プロフィールと主な作品・経歴表 事前準備

その他、作品解説にかかる写真データ等

動画構成

（ア） 国際教養大学について

【図書館について】【講義棟】【多目的ホール】【カフェテリア（増築）】について

（イ） こどもの環境に関する研究について

（ウ） 建築を学ばれたきっかけについて東工大を目指した理由。学生の頃の興味

（エ） 「こどもの国」を担当されたことについて

（オ） 事務所設立について

（カ） その後の作品について

（キ） 次世代へのメッセージこれからの建築を設計するにあたり必要なこと

（ク） 次世代への建築・環境への提言

（ケ） アーカイブについて「資料を残すこと NPO 文化継承機構について

最終成果物

（ア） タイトル：

DAAS interview vol.013　仙田満（Mitsuru Senda）

既にある物語を大切にするデザイン

－ 環境価値を高めることのできるより良い社会システムをめざして －

（イ） 構成

第1章　これまで手がけた仕事

- 国際教養大学　中嶋記念図書館 － 本に囲まれる楽しさ －
- 野中保育園　－ 遊環構造の原型となった保育園 －
- 浜松科学館　－ 浜松の自然と産業と歴史をつなぐ科学館 －
- 広島市民球場　－ 観客目線から考えられた市民球場 －

第2章　次世代への継承

（ウ） 動画　：　約 30 分

2．バーチャルリアリティ(VR)を使った空間画像データの制作について

撮影箇所：

法政大学 55/58 年館

所在地:東京都千代田区富士見 2-17-1

設計:大江宏

着工年: 55 年館 1953 年 8 月、58 年館 1956 年 11 月

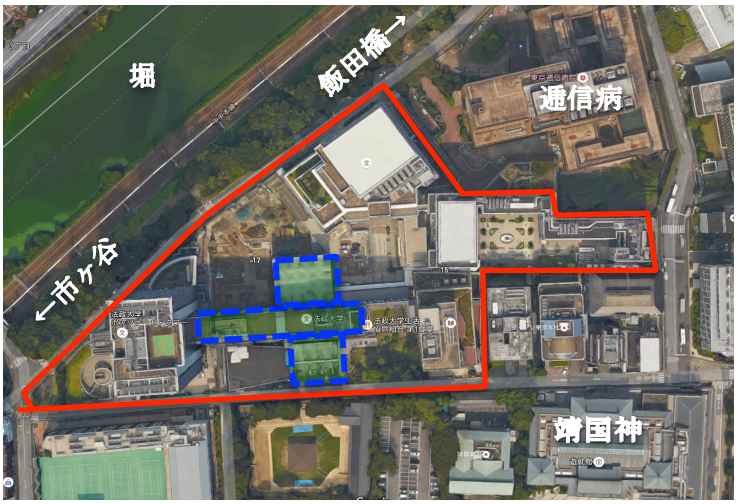
竣工年: 55 年館 1955 年 1 月、58 年館 1958 年 5 月、第 II58 年館 1958 年

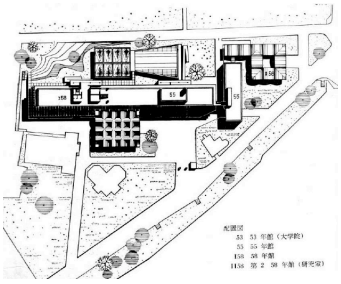
状 況:解体(2016 年)・建替

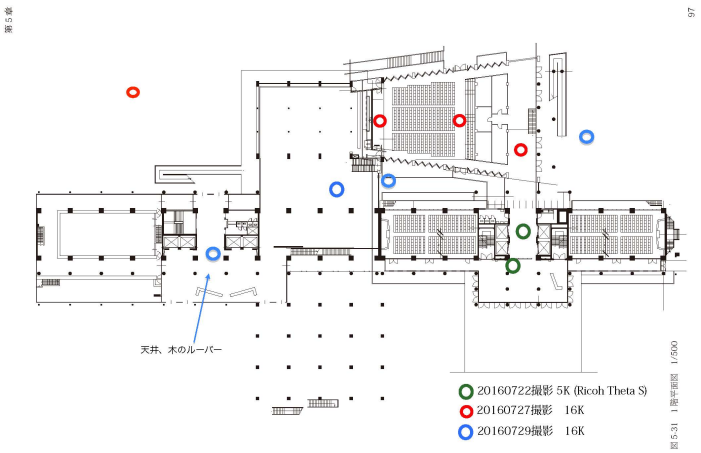
受賞歴:1958 年 日本建築学会賞(作品)、1960 年一般社団法人日本建設業連合会 BCS賞、文部科学省(旧 文部省) 1959 年 文部大臣賞芸術選

55 年館は、戦後の法政大学を代表する校舎で、学内で最も古い建物であった。58 年館とは一体になっており、地上 7 階地下 1 階建て。55 年館、及び 58 年館ともに当時工学部教授であった大江宏が設計した。

スロープが特徴的で先進的な設計をしており、58 年館とともに第 10 回日本建築学会賞作品賞、1960 年に第 1 回 BCS 賞を受賞している。各館ともそのディテールも大変興味深い素材やデザインがとりこまれているため、出来るだけ詳細な撮影を行った。







本郷「朝陽館本家」
所在地：東京都　文京区本郷 1
設計：不明。
竣工年: 1904 年(明治 37)年頃
受　　賞：不明
現況：解体(2016 年)・建替（廃業）
明治時代創業、著名な文化人にも愛された東京・本郷の老舗旅館「朝陽館本家（ちょうようかんほんけ）」。本郷が旅館街だったころの記憶をいまに伝える貴重な建物として解体に際し見学会やフィールドワーク、実測調査などの記録や取材が重ねられた。
最盛期には百軒が立ち並んだという旅館街であった地域もこの「朝陽館本家」と平成 12 年に本館が登録有形文化財となった「鳳明館」とのみが残っていた。「朝陽館本家」解体跡地には、高層マンションに建て替えられる予定で、町の景色はさらに大きく変わることとなった。
「朝陽館本家」は、岐阜県から上京した初代創設者が学生下宿から始め、その成功に刺激された親類や同郷の人たちが次々と集まり旅館を始め、本郷が文化人や学生らに愛される旅館街となったと言われる。
関東大震災、空襲にも耐えた建物であり、その後は改装も重ね部屋ごとに内装が違うなど趣ある建物となっていた。江戸時代の旗本屋敷跡四百坪の敷地で木造モルタル二階建て。五十畳の大広間、客室が四十五室というたてものであった。
漫画家手塚治虫氏も利用した部屋がエッセイに「本郷の旅館」として登場した。近年は地下にある半露天の浴場はアイドルタレントの撮影に使われた。
旅館としての営業には問題がなかったが、都市計画の変更で高層マンションが林立するようになり、近所に五軒あった旅館はすべて廃業。町の景色も変貌をとげている。2020 年のオリンピック等での客足の増加も想定されるが、設備工事、修繕等も任せられる業者がいなくなってしまったことも問題となり解体に踏み切ったと言われている。当時の面影を残す室内を中心に撮影。

最終成果物

特に法政大学についてや、多様な箇所を撮影したため、建物の簡易図面に撮影箇所を落とし込み、クリックすることでその箇所の写真が表示されるようなインターフェースにまとめた Web サイトに表示されている。

3．その他資料のデジタルデータ化作業成果

建築関連団体の受賞作品その他著名建築作品の緒言データ整備

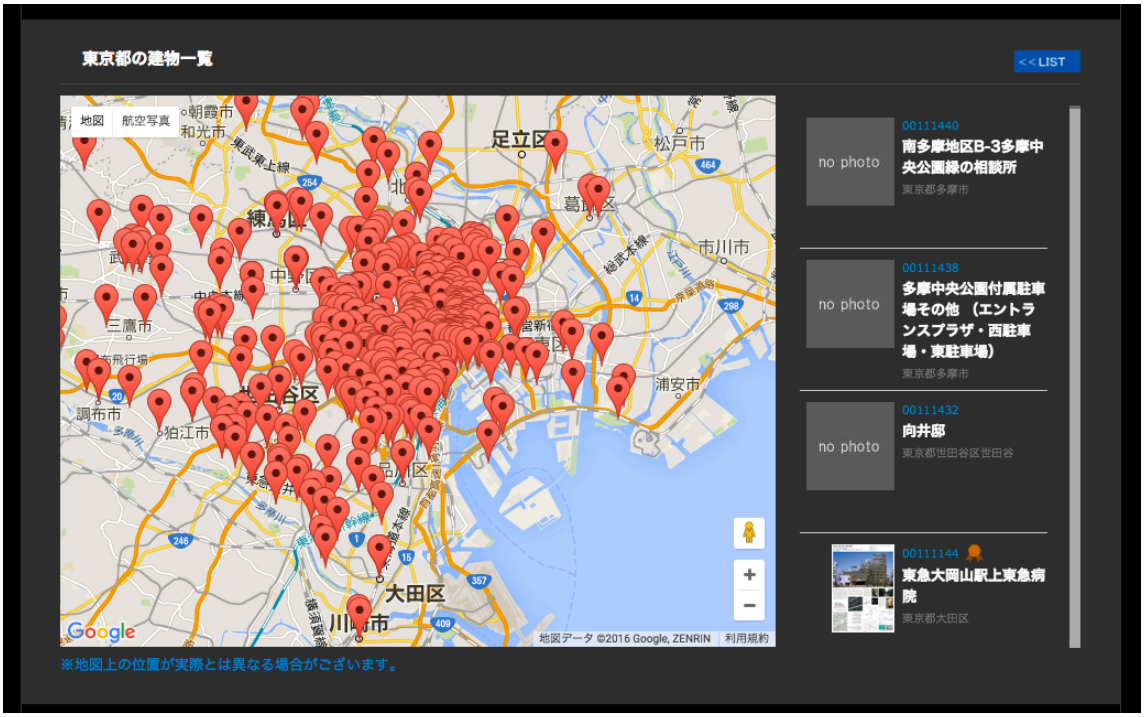
これまで DAAS で収録した 1 万点の建築資料については、建築関連団体の受賞作品や著名な建築作品についての貴重な資料である。しかし、その膨大な資料から検索をする為の緒言情報（メタデータ）については、建物の施工年が古いものや収録時の情報の不備等々があり、特に重要な建物の位置情報・住所情報は整備ができていない。

また現況（取り壊し、改築、移転、所在地の市町村合併等）確認も必要と考え、建物の現況と住所表記のデータ化に着手。価値ある建物の正確な所在地のデータ情報を整備する

最終成果物

前年度、合計 2788 件の住所・緯度経度の入力の確認を行ったが、機械的な検索等による、緯度経度の誤差も多く見られ再度の見直しが必要となった。全体で 2900 件のデータについて全て見直しをおこなったが、そのうち、旧住所表記（1950～80 年代竣工の建物情報や、古い書籍の情報の写しであるため）、緯度経度情報の検索が全くできない、などの情報も多く、改めて再調査の優先度を決め「再確認のみ」としてよい情報、「詳細な調査が必要な情報」等々に内容を振り分けし

た。再調査の優先度が高い物は、優先度“高”としその中でも「県外の緯度経度をさしている」もの「住所が不完全な表記」等により段階をわけ、優先度の高い物から再調査対象としたが、その件数だけで約 1100 件となり、その他「コンペ等の情報のため、詳細の緯度経度が不明」「調査を行った物」等々の再確認も同様に行い、2900 件の情報を整理した。再調査し、整理された緒言情報は、DAAS-Web サイトに反映。これにより検索機能の「地図検索」についての精度をあげることができた。東京都などの建物が密集する地区では、周辺建物とともに著名建築の所在地を検索ができることとなった。このデータ化により、各地域の建物の見学・観光・町歩きなど新たな Web サイトの利用方法、活用方法などが見込まれる。



4.以上のコンテンツ掲載に必要な WEB サイトの機能追加

以上の事業成果の Web サイト掲載にかかるシステムの機能追加、機能修正、新規ページの作成等を行った。

資料5

第12期(2017-2018年) 収支予算

2017年10月1日から 2018年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額	参考:第11期予算額	第11期との差異
Ⅰ. 事業活動収支の部			
事業活動収入			
1. 会費・入会金収入	6,090,000	6,090,000	0
企業会員	4,060,000	4,060,000	0
団体会員	2,000,000	2,000,000	0
学術・教育機関会員	30,000	30,000	0
個人会員	0	0	0
2. 事業収入	3,050,000	3,050,000	0
Webコンテンツ作成事業	3,000,000	3,000,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	50,000	0
3. その他収入	0		0
受取利息	0	0	0
雑収入	0	0	0
事業活動収入計	9,140,000	9,140,000	0
事業活動支出			
1. 事業費支出	4,520,000	5,150,000	▲ 630,000
WEBサイト改修委託支出	550,000	550,000	0
イベント事業支出			0
コンテンツ整備事業支出	100,000	600,000	△ 500,000
サーバ管理委託費	870,000	850,000	20,000
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用	880,000	880,000	0
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用	440,000	440,000	0
Webコンテンツ作成事業/オーラルアーカイブ制作	1,200,000	1,200,000	0
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備とコンテンツ制作	300,000	300,000	0
Webコンテンツ作成事業/その他経費	180,000	180,000	0
広報事業	0	150,000	△ 150,000
保守費支出	0	0	0
2. 管理費支出	6,008,000	6,008,000	0
事務所経費	0		0
人件費	4,080,000	4,080,000	0
法定福利費	700,000	700,000	0
旅費交通費支出	230,000	230,000	0
機材費支出	50,000	50,000	0
通信運搬費支出	250,000	250,000	0
渉外費支出	0	0	0
会議費(含総会)支出	465,000	465,000	0
租税公課支出	0	0	0
会計士外部委託費支出	173,000	173,000	0
雑費支出	60,000	60,000	0
事業活動支出計	10,528,000	11,158,000	△ 630,000
事業活動収支差額	△ 1,388,000	△ 2,018,000	630,000
Ⅱ. 投資活動収支の部			
投資活動収入			
修繕引当預金取崩収入	0	0	0
その他固定資産取得収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
投資活動支出			
修繕引当預金取得支出	0	0	0
その他固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
Ⅲ. 財務活動収支の部			0
財務活動収支差額	0	0	0
Ⅳ. 予備費支出			0
予備費支出	3,859,022	3,729,621	129,401
当期収支差額	△ 5,247,022	△ 5,747,621	500,599
前期繰越収支差額	5,247,022	5,747,621	△ 500,599
次期繰越収支差額	0	0	0

注)この予算書は消費税込みで計算しております

資料３

監　査　報　告　書

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム規約第 15 条第 4 項の規定に基づき、建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアムの第 11 期（2016-2017 年度 2016 年 10 月 1 日から 2017 年 9 月 30 日まで）の業務報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った結果、正確かつ適正であることを認めます

年　月　日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長

和田 勇　印

年　月　日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

一般財団法人 日本建築センター 理事長

橋本 公博　印

議案２　第 12 期（2017-2018 年）事業計画（案）及び収支予算（案）について

資料４　第 12 期（2017-2018 年）事業計画（案）

資料５　第 12 期（2017-2018 年）収支予算（案）

資料4

第 12 期(2017-2018 年)事業計画(案)

1. 基本方針

DAAS の基本活動の「Web サイト等基本システムの維持・管理」、「収蔵データの維持・保全」を通じて、公益的活動を継続する。活動にあたり、運営委員会の下に設置した「企画運営部会」の検討により事業を推進する。

なお、第 11 期からの継続事業については、第 12 期での実施を目指す。

2. 事業計画

(1)Web サイト等基本システムの維持・管理

DAAS-Web サイト、DAAS 基本システムの安定的な稼働体制を維持・継続する。サーバ保守業者による、サーバ OS、周辺アプリケーションのセキュリティー対策プログラムを定期的に適用し、引き続きサーバ環境のセキュリティー対策を行う。

(2)収蔵データの維持・保全

「高精細画像データ」の事務局内保管分及び、遠隔地保管によるさらなる冗長性を確保する体制を継続する。新規収蔵コンテンツがあった場合には、同様の維持・保全措置を講ずる。

(3)「企画運営部会」を中心とした事業推進と、運営体制安定化・強化策等に係る検討

「企画運営部会」を中心とした事業推進、運営委員会との連携、今後の DAAS 活動に資する検討や、一層の運営基盤安定化検討へ向けた体制を確立する。

① 運営基盤の安定化方策検討(継続)

(ア) 今後の運営方針の選択肢検討

(イ) 他機関との連携に関する事項、等

②事業計画に基づく事業実施や企画検討

③その他、運営委員会承認事項の事前検討 等

(4)コンテンツの整備

動画収録、デジタルデータ作成

第 11 期同様、国庫補助金を活用したコンテンツを整備する。対象コンテンツは「企画運営部会」において検討するものとし、予算、納期等を考慮しつつ、実施可能なものから具体作業に着手する。

[前期より継続:コンテンツ整備事業(予定)※企画運営部会にて継続検討]

・団体等受賞作品の収蔵

・動画収録(DAAS 収蔵作品の建築家、写真家等)

・VR(ヴァーチャルリアリティ)を利用した空間画像データ

(5) Web サイトの改善

新規コンテンツ収蔵に必要な機能追加、検索機能の改善のための機能追加を実施。

「(4)新規コンテンツの整備」と連動し、第 11 期よりの継続事業とする。

(6) その他

①DAAS 認知度向上等へ向けた広報等に係る活動

②その他 DAAS の目的に資する活動を実施する。

資料5

第12期(2017-2018年) 収支予算

2017年10月1日から 2018年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額	参考:第11期予算額	第11期との差異
Ⅰ. 事業活動収支の部			
事業活動収入			
1. 会費・入会金収入	6,090,000	6,090,000	0
企業会員	4,060,000	4,060,000	0
団体会員	2,000,000	2,000,000	0
学術・教育機関会員	30,000	30,000	0
個人会員	0	0	0
2. 事業収入	3,050,000	3,050,000	0
Webコンテンツ作成事業	3,000,000	3,000,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	50,000	0
3. その他収入	0		0
受取利息	0	0	0
雑収入	0	0	0
事業活動収入計	9,140,000	9,140,000	0
事業活動支出			
1. 事業費支出	4,520,000	5,150,000	▲ 630,000
WEBサイト改修委託支出	550,000	550,000	0
イベント事業支出			0
コンテンツ整備事業支出	100,000	600,000	△ 500,000
サーバ管理委託費	870,000	850,000	20,000
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用	880,000	880,000	0
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用	440,000	440,000	0
Webコンテンツ作成事業/オーラルアーカイブ制作	1,200,000	1,200,000	0
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備とコンテンツ制作	300,000	300,000	0
Webコンテンツ作成事業/その他経費	180,000	180,000	0
広報事業	0	150,000	△ 150,000
保守費支出	0	0	0
2. 管理費支出	6,008,000	6,008,000	0
事務所経費	0		0
人件費	4,080,000	4,080,000	0
法定福利費	700,000	700,000	0
旅費交通費支出	230,000	230,000	0
機材費支出	50,000	50,000	0
通信運搬費支出	250,000	250,000	0
渉外費支出	0	0	0
会議費(含総会)支出	465,000	465,000	0
租税公課支出	0	0	0
会計士外部委託費支出	173,000	173,000	0
雑費支出	60,000	60,000	0
事業活動支出計	10,528,000	11,158,000	△ 630,000
事業活動収支差額	△ 1,388,000	△ 2,018,000	630,000
Ⅱ. 投資活動収支の部			
投資活動収入			
修繕引当預金取崩収入	0	0	0
その他固定資産取得収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
投資活動支出			
修繕引当預金取得支出	0	0	0
その他固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
Ⅲ. 財務活動収支の部			0
財務活動収支差額	0	0	0
Ⅳ. 予備費支出			0
予備費支出	3,859,022	3,729,621	129,401
当期収支差額	△ 5,247,022	△ 5,747,621	500,599
前期繰越収支差額	5,247,022	5,747,621	△ 500,599
次期繰越収支差額	0	0	0

注)この予算書は消費税込みで計算しております

報　告

資料6　会員名簿変更について

資料7　規約第7条第4項に基づく指定代表者の
　　変更について

資料 6

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム（DAAS）
会員名簿

（順不同　敬称略）

槇　　文彦（建築家）
竺　　覚暁（金沢工業大学教授　金沢工業大学建築アーカイヴス研究所顧問）
隈　　研吾（建築家）
六角　鬼丈（建築家）
難波　和彦（建築家）
古谷　誠章（一般社団法人 日本建築学会 会長）
三井所 清典（公益社団法人 日本建築士会連合会 会長）
大内　達史（一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長）
六鹿　正治（公益社団法人 日本建築家協会 会長）
押味　至一（一般社団法人 日本建設業連合会 副会長）
和田　　勇（一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長）
橋本　公博（一般財団法人 日本建築センター 理事長）
井上　俊之（一般財団法人 ベターリビング 理事長）
吉田　信之（株式会社 新建築社 代表取締役）
清水　琢三（五洋建設株式会社 代表取締役社長）
山口　俊男（株式会社 奥村組 取締役専務執行役員）
千鳥　義典（株式会社 日本設計 取締役 社長）
成川　哲夫（新日鉄興和不動産株式会社 取締役相談役）
鈴木　章夫（前田建設工業株式会社 執行役員 建築事業本部　建築設計担当）
栗山　茂樹（清水建設株式会社　専務執行役員　設計本部長）
内山　和哉（積水ハウス株式会社 常務執行役員　東京支社長）
河野　晴彦（大成建設株式会社 常務執行役員　設計本部長）
菅　　順二（株式会社 竹中工務店　執行役員　設計本部長）
亀井　忠夫（株式会社 日建設計 代表取締役社長）
山本　朋生（株式会社 大林組　執行役員設計本部長）
尾崎　　勝（鹿島建設株式会社 専務執行役員 建築設計本部長）
副島　伸一（住友不動産株式会社東京東ビル事業部長）
田中　孝典（株式会社 山下設計 代表取締役社長）
大堀　正博（三井不動産株式会社 建設企画部長）
碓氷　辰男（東京建物株式会社 常務取締役）
村井　　純（慶應義塾大学 環境情報学部長）
西生　一次（株式会社 日建学院 代表取締役社長）
南川　陽信（大和ハウス工業株式会社　執行役員　技術本部住宅系設計推進部長）
森高　英夫（一般社団法人 日本建築構造技術者協会 会長）
鈴木　眞生（公益財団法人 建築技術教育普及センター 理事長）
野部　達夫（一般社団法人 建築設備技術者協会 会長）

2017 年 11 月改訂

資料7

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム（DAAS）法人会員指定代表者変更

（建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム規約　第７条第４項　関係）

（敬称略）

■ 企業会員

大成建設株式会社

〈変更前〉　河野　晴彦　（常務執行役員　設計本部長）
〈変更後〉　河野　晴彦　（専務執行役員　設計本部長）

清水建設株式会社

〈変更前〉　栗山　茂樹　（常務執行役員　設計本部長）
〈変更後〉　栗山　茂樹　（専務執行役員　設計本部長）

前田建設工業株式会社

〈変更前〉　鈴木　章夫（執行役員　建築事業本部　企画・開発設計部長）
〈変更後〉　鈴木　章夫（執行役員　建築事業本部　企画・開発設計部長）

株式会社竹中工務店

〈変更前〉　菅　　順二（執行役員　設計本部長）
〈変更後〉　川合　智明（執行役員　設計本部長）

2017 年 11 月付